

X I . 臨床指数 (クリニカルインディケータ)

消化器内科

【内視鏡件数】

2020年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
上部内視鏡	242	159	294	324	359	406	461	423	385	314	287	282	3,936
下部内視鏡	98	64	139	148	122	132	146	137	145	122	128	144	1,525
大腸良性EMR	34	15	45	41	28	32	39	35	44	31	34	32	410
大腸癌EMR	1	0	3	1	1	4	7	4	3	5	1	2	32
ERCP	21	18	11	22	29	35	28	21	21	16	16	30	268
ESD	3	5	1	3	4	4	4	5	4	6	4	1	44
EIS	2	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	6
その他	0	6	2	9	5	1	2	6	3	3	3	0	40

《肝胞癌に対する治療》

RFA : 1 例

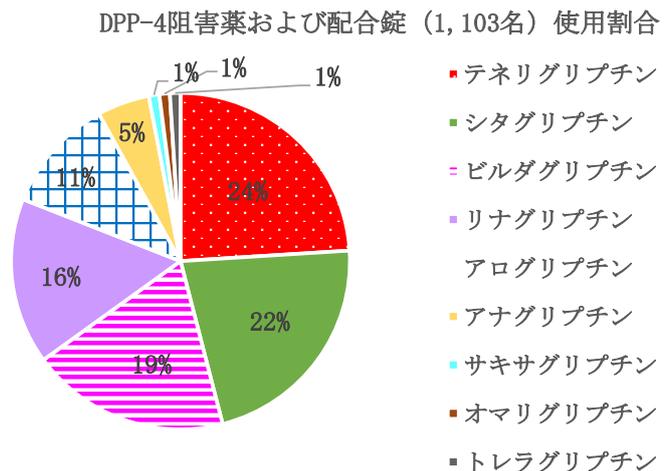
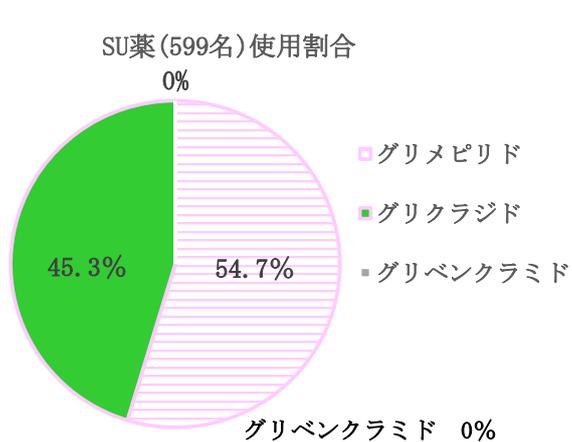
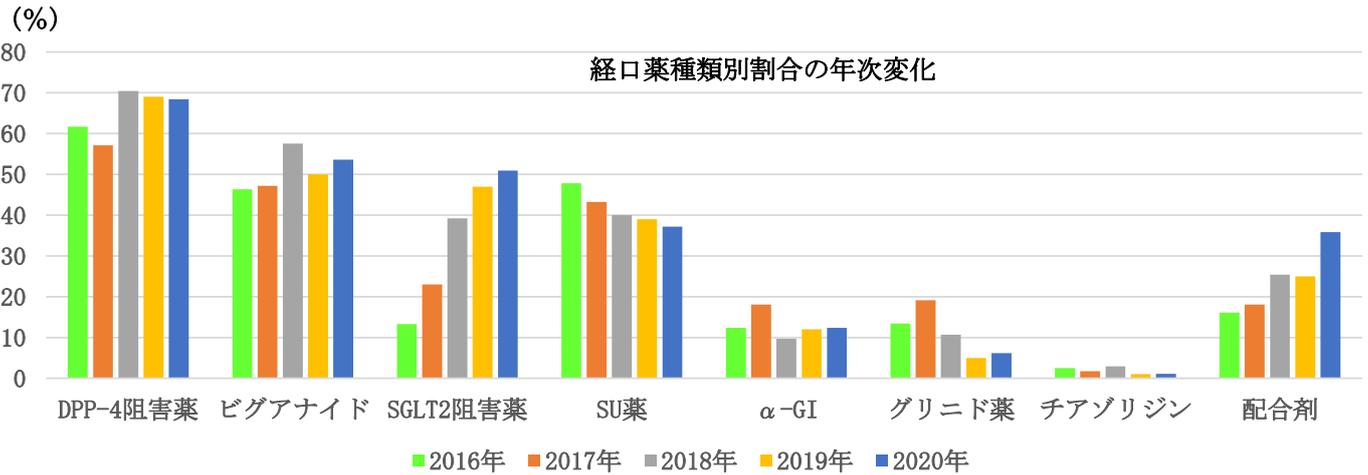
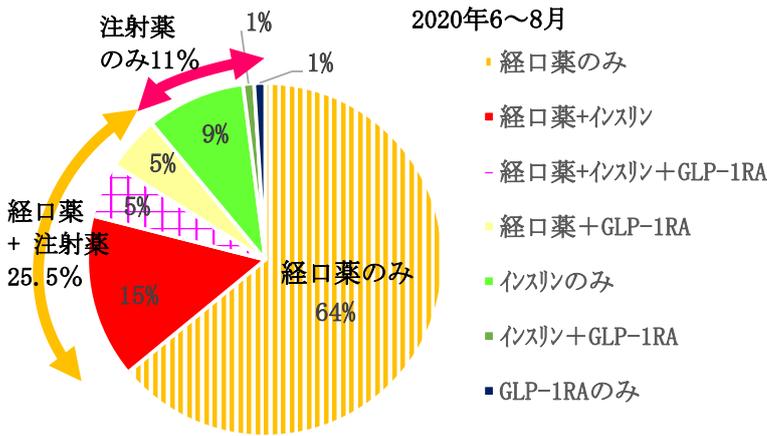
PEIT : 0 例

TACE : 15 例

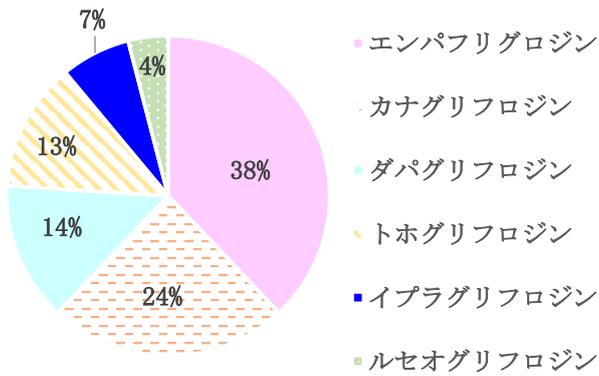
(RFA : 経皮的ラジオ波焼灼療法 PEIT : 経皮的エタノール注入療法 TACE : 肝動脈化学塞栓療法)

糖尿病・代謝内科

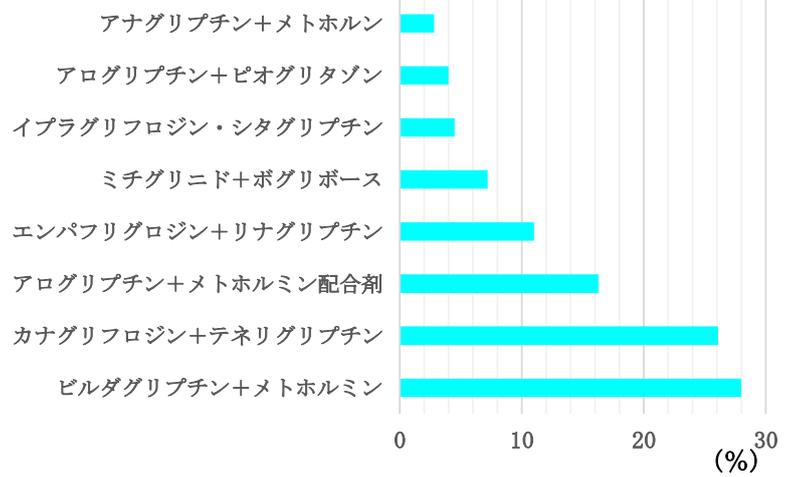
経口薬注射薬割合（糖尿病専門外来1,795名）



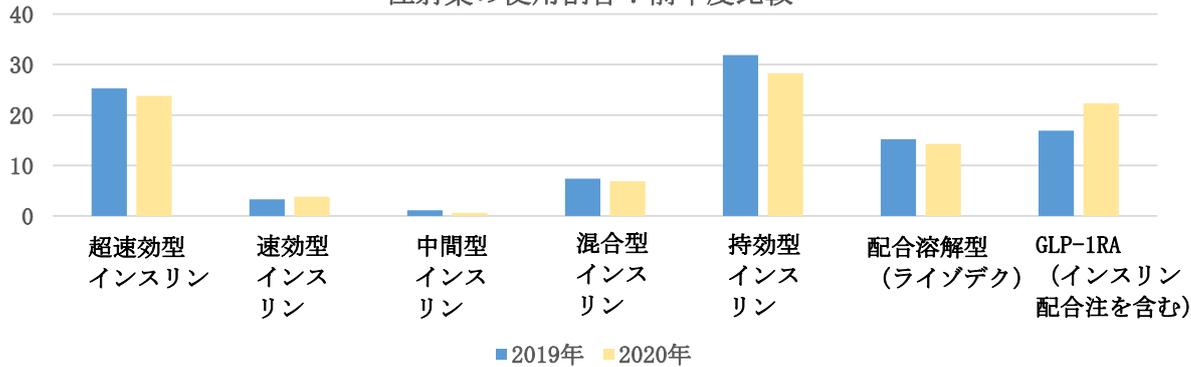
SGLT2阻害薬および配合錠（821名）の使用割合



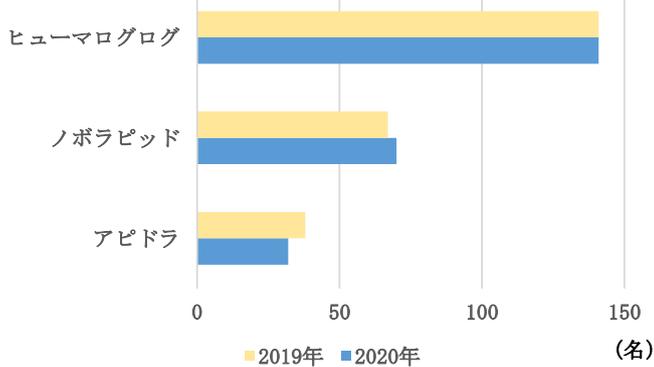
配合錠（600名）使用割合



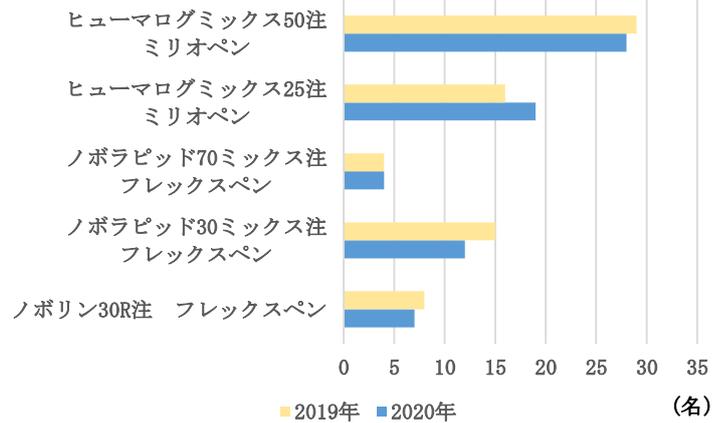
注射薬の使用割合：前年度比較



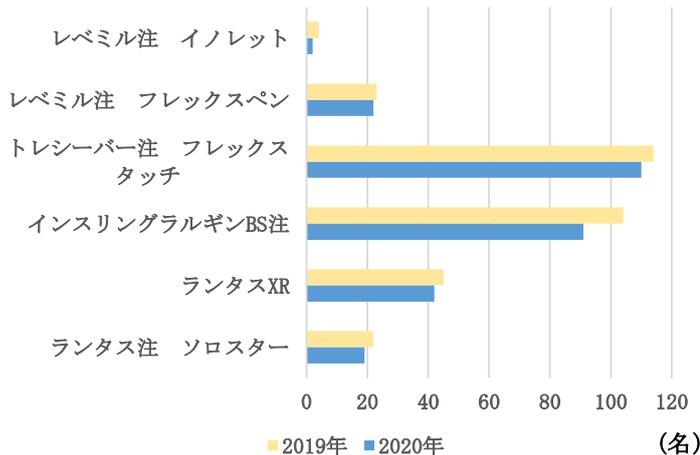
超速効型インスリン製品別使用人数：前年度比較



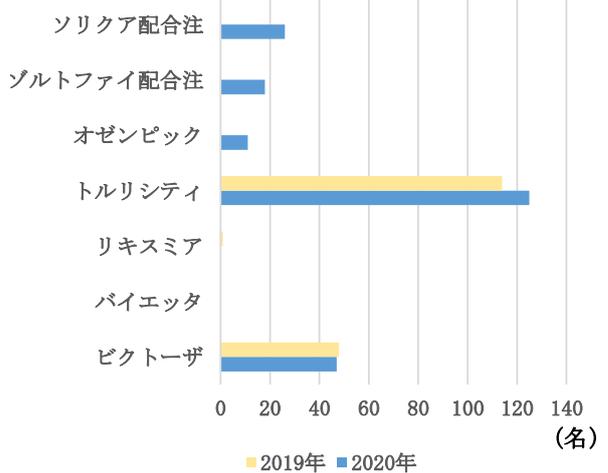
混合型インスリン製品別使用人数：前年度比較



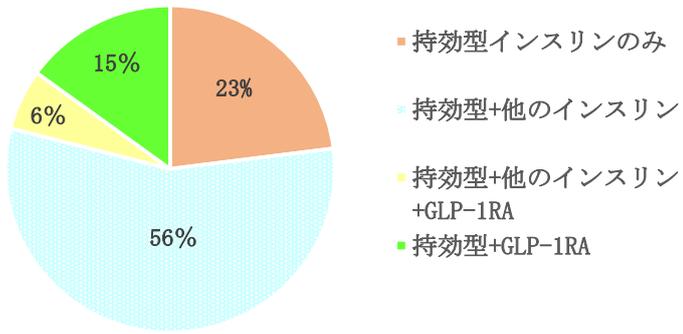
持効型インスリン製品別使用人数：前年度比較



GLP-1受容体作動薬製品別使用人数：前年度比較



持効型インスリン279名の他注射薬との併用割合



外来糖尿病患者	全ての科	1,610名 延べ13,694名
	当科	1,342名 延べ6,521名
インスリン処方患者	外来	963名
	入院	144名
入院患者数	全ての科	336名 延べ512名
	当科	111名 延べ164名

循環器内科

経皮的冠動脈インターベンション (PCI)	227例
血管内治療 (EVT)	54例
腎動脈インターベンション (PTR)	2例
経皮的心筋中隔アブレーション (PTSMA)	0例
バルーン大動脈形成術 (BAV)	1例
永久ペースメーカー	
新規植込み	34例
交換	13例
カテーテルアブレーション	115例
下大静脈フィルター留置	2例
心筋生検	7例
心嚢ドレナージ	7例

呼吸器内科+呼吸器外科

肺癌	121例
小細胞癌	14例
腺癌	61例
扁平上皮癌	23例
大細胞癌	2例
LCNEC	0例
非小細胞癌	5例
腺扁平上皮癌	1例
多形癌	2例
組織型不明	13例
悪性胸膜中皮腫	3例
縦隔腫瘍	0例
縦隔癌	0例
胸腺癌	0例
胸腺腫	1例
転移性肺腫瘍	0例
転移性癌性胸膜炎	2例
良性腫瘍	2例
リンパ腫	2例
原発不明癌	1例
化学療法	62例
外来化学療法	48例 (導入率77.4%)
EGFR-TKI	6例
ALK-TKI	1例
放射線治療	22例

消化器外科

2020. 1. 1 ~ 2020. 12. 31 消化器外科退院患者統計

入院患者数	男 466
717	女 251

入院手術症例数	576
---------	-----

合併症109 (94症例)	感染症	43
	縫合不全	8
	呼吸器系	7
	循環器系	5
	出血	5
	脳血管障害	2
	腎	1
その他	38	

転帰	治癒	338
	軽快	284
	不変	40
	転科	35
	転院	12
	死亡	7
	悪化	1

「死亡」の内訳	良性 2	縊頸、NOMI
	悪性 5	原病死（大腸癌3、胃癌1）、大腸癌術後縫合不全などからの多臓器不全（肝硬変既往）

平均入院日数 11.1日

手術合併症 総数576例 合併症症例 94例 (16.5%)	胃十二指腸 10例	縫合不全(3)
		膿胸
		腸閉塞
		創感染
		腸炎
		腹腔内膿瘍(3)
		膵液瘻(2)
		偽膜性腸炎
	上部穿孔 3例	低ナトリウム血症
		総胆管結石
		肺炎、腸炎
	小腸 14例	腸管穿孔、死亡
		縫合不全
		不整脈、心不全
		肺炎(2)
		脂肪壊死(2)
		尿路感染(2)
		創し開(2)
		呼吸不全
		腸閉塞
		創感染(3)
		脳梗塞(2)
		肝臓 4例
腸閉塞		
術後せん妄		
	胆汁瘻	

手術合併症 総数576例 合併症症例 94例 (16.5%)	胆嚢 11例	肝障害
		腸炎
		腹腔内膿瘍(5)
		腸閉塞(2)
		肺炎(2)
		腹腔内出血
		無気肺
		循環不全
	胆道 1例	膵空腸縫合不全、腹腔内膿瘍、胆汁嘔吐
	膵 0例 (膵切除術2例)	
	大腸 30例	腹膜炎、壊死性筋膜炎、多臓器不全、死亡
		縫合不全、死亡
		縫合不全、回腸ストマ
		縫合不全(疑)
		腸閉塞(11)
		腹腔内膿瘍(5)
		腹腔内SSI(疑含む)(2)
		創し開・点滴ルート感染(疑含む)(3)
		下部消化管出血(2)
		薬剤性肝障害
		十二指腸出血(抗凝固剤のため?)
		せん妄
		胆嚢炎
		じんましん
	ポート感染	
	橈骨神経麻痺	
	不整脈	
尿管結石		
誤嚥性肺炎		
下部穿孔 1例	急性循環不全 腹膜炎でreOpe	
appe穿孔- 1例	脂肪壊死	
appe穿孔+ 6例	イレウス(3)	
	腹腔内膿瘍(3)	
鼠径ヘルニア 6例	精管損傷	
	皮下血腫	
	心不全その他(嵌頓術後、既往悪化)	
	腸閉塞(嵌頓例)	
	直腸損傷(自己摘便由来)	
尿道損傷(バルーン由来)		
へモ 1例	MRCNS敗血症、胸膜炎(四肢切断既往あり、感染源?)	
再発 1例	腸閉塞(胃癌再発、直腸狭窄でストマ造設後)	
その他 4例	LDG後の輸入脚症候群、Braun吻合追加、脂肪壊死	
	リンパ腫の非外傷性脾破裂脾摘後、腹腔内SSI	
	リンパ腫の腹腔内リンパ節生検後、胆管炎疑い	
	鼠径ヘルニア術後皮下血腫、除去術、胆管結石	

手術関連死亡 3例 (0.52%)	良性	NOMI、小腸切除後	83歳 女性 術後55日
	悪性	大腸癌術後	75歳 男性 術後84日
		直腸癌、壊死性筋膜炎術後	57歳 男性 術後1日

再手術症例 9例 (1.6%)	癒着性イレウスで腹腔鏡下小腸バイパス → 縫合不全・狭窄で再バイパス手術
	胃癌で腹腔鏡下胃全摘 → 縫合不全・縦隔炎で縦隔ドレナージ術
	直腸癌で腹腔鏡下直腸前方切除 → 縫合不全で横行結腸ストマなど
	胆管癌でSSPPD → Braun吻合
	小腸穿孔で小腸切除 → 嚥下機能低下で胃瘻造設
	絞扼性イレウスで小腸切除 → 腹壁創離開で再縫合 → 胆のう炎で腹腔鏡補助下胆摘
	直腸癌の播種で腔鏡下播種結節切除 → CVポート感染で抜去術
	S状結腸癌穿孔でハルトマン手術 → 膿瘍に対して開腹ドレナージ術
	直腸癌で腹腔鏡下直腸前方切除 → 縫合不全で回腸結腸ストマなど

予期しない術後 再入院12例 (2.1%)	絞扼性イレウス解除術 → 絞扼性イレウス再発、解除固定術
	絞扼性イレウスで小腸切除 → 癒着性イレウスで小腸切除
	残胃癌で残胃全摘 → 腸炎 (2回) (関連性不明)
	虫垂粘液腫で腹腔鏡下盲腸切除 → 悪性診断のため腹腔鏡下回盲部切除 (予期済み)
	絞扼性イレウスで腹腔鏡下癒着剥離 → イレウスで腹腔鏡下癒着剥離
	大腸癌肝転移再発で切除 → 異時性再発で肝切除 (やむを得ないと考えられる)
	左鼠径ヘルニア、Plug Mesh法 → 血腫と感染、ドレナージ
	痔核根治術 (切除術) → 創出血 (保存的治療で軽快)
	胃癌で腹腔鏡下胃垂全摘 → 腹腔内膿瘍 (保存的治療で軽快)
	胃癌で開腹胃全摘、胆摘 → イレウス (保存的治療で軽快)
	胃潰瘍穿孔、腹腔鏡下穿孔部縫合閉鎖 → 脾膿瘍で脾摘 (関連性不明)
	虫垂炎で腹腔鏡下切除、遺残膿瘍 → 抗生剤経口投与中に偽膜性腸炎 (保存的治療で軽快)

予期しない術後再入院については、以下のような例は省略しています。

虫垂炎穿孔でドレナージのみ→待機的虫垂切除

(一時的)ストマ造設→ストマ閉鎖術 (良性・悪性問わず)

同時性肝転移のある大腸癌で、大腸切除→肝切除

切除不能癌に対する姑息的手術→癌増悪 (入院日の予期はできないが、いずれ想定されていたため)

また、全く関連がないと考えられる疾患 (悪性腫瘍と鼠径ヘルニアなど) も除外しています。

整形外科

大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折 令和2年 地域連携パスの実績

① 総患者数	188名	[令和元年 173名]
② 治療方法	手術療法 187名、保存治療 1名	
③ 地域連携パス利用率（人数）	63.8%、120名	[令和元年 60.7%、105名]
④ 当院での在院日数		
i) 全体	25.5日	(死亡等2名を除く) [令和元年 28.4日]
ii) 地域連携パス利用者	21.8日	[令和元年 25.1日]
iii) 地域連携パス除外者	32.3日	(死亡等2名を除く) [令和元年 34.0日]
⑤ 手術から転院・退院までの日数		
i) 全体	22.7日	[令和元年 25.4日]
ii) 地域連携パス利用者	18.9日	[令和元年 22.0日]
iii) 地域連携パス除外者	29.6日	[令和元年 31.2日]
⑥ 総治療日数（地域連携パスを利用し、当院から回復期リハビリ病院を経て在宅復帰が達成できるまでの期間）	81.7日	[令和元年 87.4日]

10. 泌尿器科

周術期死亡	なし
再手術症例	2例
TUR後出血 シヤント術後出血	
手術創感染	なし
前立腺生検後菌血症	なし
前立腺生検	86件 うち癌検出59件

11. 脳神経外科

年齢	入院時病名	TOAST 分類	locati on	O to D	D to I	D to N	D to P	P to R	D to R	O to N	O to R	TICI	pre- mRS	ent- mRS	90days- mRS	preCT- ASPECT
86歳	心原性脳塞栓症	CE	M1	57	7	NA	101	57	158	NA	215	3	4	4	4	10
79歳	アテローム血栓性 脳梗塞・急性期	ATBI	ICA	57	13	NA	90	160	250	NA	307	2A	0	2	0	9
60歳	心原性脳塞栓症	CE	M1	34	11	NA	120	45	165	NA	199	3	0	1	0	10
96歳	脳梗塞・急性期	CE	M2	43	14	97	181	71	252	140	295	2B	3	4	4	10
80歳	脳梗塞・急性期	ATBI	ICA	32	16	63	88	NA	NA	95	NA	0	0	4	4	10
82歳	アテローム血栓性 脳梗塞・急性期	ATBI	ICA	34	22	46	64	18	82	80	116	3	0	4		9
74歳	脳梗塞・急性期	CE	ICA	666	15	NA	51	15	66	NA	732	3	0	0	0	9
86歳	塞栓性小脳梗塞・ 急性期	CE	BA	300	11	NA	37	20	57	NA	357	3	0	3	3	7
77歳	心原性脳塞栓症	CE	M1	280	12	NA	60	17	77	NA	257	3	0	4		10
63歳	アテローム血栓性 脳梗塞・急性期	Other (ESUS)	M1	43	18	22	49	8	57	65	100	2C	0	0	0	10
96歳	心原性脳塞栓症	CE	M1	95	19	23	51	94	145	118	240	2B	4	6	6	7
78歳	心原性脳塞栓症	CE	M1	49	8	16	52	8	60	65	109	3	0	1		10
64歳	心原性脳塞栓症	CE	P1	7	18	23	45	38	83	30	90	3	0	0		10
89歳	脳梗塞・急性期	CE	M2	697	23	NA	136	19	155	NA	852	3	3	2		10

有効再開通率(2B-3) 85.70%
 OtoR 中央値 240分
 DtoR 中央値 83分
 90days mRS0-2 率 未確定
 90days mRS0-3 率 未確定

12. 麻酔科

麻酔科管理症例数 2,647
(全手術症例数 4,130)

麻酔別分類	症例数
全身麻酔	1,890
全身麻酔＋硬膜外（脊髄くも膜下）麻酔	547
硬膜外麻酔＋脊髄くも膜下麻酔	0
硬膜外麻酔	0
脊髄くも膜下麻酔	109
その他	101
緊急症例数	327
重大な医療事故症例数	0

13. 歯科口腔外科

- 入院患者数 559人
男 268人
女 291人
- 平均年齢 44.84歳
- 平均入院日数 4.3日
- 入院内訳 559症例
予定入院 512症例
予定外入院 44症例
緊急医療入院 3症例
- 術後合併症 下顎智歯抜歯後知覚鈍麻 5症例